

特別企画

2日目 10月18日(金)11:00~12:00

第1会場 (和歌山県民文化会館 2F 大ホール)

再生・蘇りの熊野本宮

熊野本宮大社 宮司 九鬼 家隆

座長 筒井 一成 (日本赤十字社和歌山医療センター 副院長)

特別企画

再生・蘇りの熊野本宮



熊野本宮大社 宮司

くき いえたか
九鬼 家隆

【略歴】

- 1979年 國學院大學神道学科卒業
明治神宮奉職
- 1986年 熊野本宮大社禰宜
- 1988年 熊野本宮大社権宮司
- 2001年 熊野本宮大社宮司
- 2004年 和歌山県神社庁東新支部長就任
- 2006年 和歌山県神社庁田辺・西牟婁支部長就任
- 2007年 神道政治連盟和歌山県本部長就任
- 2011年 神職身分一級・浄階
和歌山県合気道連盟会長就任

- 他現職
- 神宮評議員
 - 神宮崇敬会評議員
 - 神社本庁参与
 - 儀礼文化学会評議員
 - 國學院大學評議員
 - 皇學館協議員
 - 京都皇典講究所評議員
 - 和歌山県神社庁研修所講師
 - 和歌山県世界遺産熊野地域協議会委員
 - 古都の森観光文化協会顧問
 - 熊野本宮観光協会顧問
 - 田辺市景観保全審議会委員
 - 熊野三山協議会副会長

平成二十三年三月十一日、正に国難と言うべき大災害が、何の前触れもなく東日本の人々に襲いかかり、今尚、多くの同胞が艱難辛苦のもとに身を置いています。しかし脈々と受け継がれてきた大和魂は、決して過去の大難において一步も「歩み」を止める事無く一步、又一步と着実に「歩み」を進めて参りました。これこそが我が国体最大の精華で有り、世界に誇りうる日本人の心の繋がりを証明したものです。

当社も今を去る百二十年前に全境内地が東日本大震災に匹敵する大土石流に瞬時に飲み込まれ、上四社の御社殿を除く諸建造物に甚大な被害を受け、氏子自身も全戸深刻なる災害を被った中、零からの復興に敢然と立ち上がり、当時は無論重機一つ無い中、手作業により、堪へ難きを堪え忍び難きを忍んで、以てその赤誠により僅か一年半の工期にて、見事に御社殿上四社をお遷し復活再生を為し遂げるに至りました。この歴史的事実は、御神恩はもとより日本人の祖国への愛情と復興に対する力強さを感じずにはいられません。

ところが、平成二十三年九月初旬、広く熊野地方を襲った台風十二号による豪雨にて、多くの尊い人命が奪われ、熊野の山々を崩落させ、山津波・土石流や鉄砲水を引き起こし、当社も明治二十二年の大洪水以来の深刻な被災状況に陥り、浸水した水位もちょうど百二十年前と同じ高さに達したのであります。

百二十年前に先人たちが命を懸けて守り通した御社殿四殿は厳然とそびえ立っていますが、世界遺産コアゾーンに当たる大斎原はもとより、同じく世界遺産奥駈道の入り口に当たる備崎を始め、瑞鳳殿も修復不可能な壊滅的打撃を被るに至りました。ここに於いて改めて百二十年前の明治の先人達の卓越した先見の明に、身を以て再確認させられた次第であり、もしその折の思い切った英断がなければと、背筋の凍る思いが致します。この大災害に対し、全国より心暖まるお見舞い、来社されての激励、救援物資による支援、また本宮建設業組合による無償での重機での大斎原復旧工事、とりわけ九月十八日には全国より二百名弱におよぶボランティアの方々が駆けつけて見事大斎原を再生頂いたのであります。

また今年は神宮にて第六十二回式年遷宮が斎行されますが、昨年から当社は平成二十四年四月九日の本殿遷座祭を皮切りに十六日に至る正遷座百二十年大祭を斎行し、平成二十五年例大祭に至る迄の間、毎月奉納行事を企画し、現在生を受けている人々が、ここを一つにして、亡くなられた多くの尊い御魂の鎮魂と日本再生・世界平和・地球と大陸と自然の安泰・人類の平和を祈る御祭として、これを「日本再生～神仏の祈り～」と位置づけ、全国の皆様方と共に祈りを捧げ、それを大きな力として結集し、再生の地「熊野」から日本が一日も早い再生を成し遂げるよう、またこの日本に暮らす皆様の日々の暮らしが「煌き」あるものでありますことを御祈念申し上げたところであります。